

古い落書き

私の家から実家までは、車で1時間くらいです。近いので、ときどき実家に行きます。実家にいる間は、子どもの頃のように何もしないでごろごろします。漫画を読んだりテレビを見たり、昼寝をしたりします。起きると夕食ができています。最高です。

実家に帰るときは、いつも子どもたちといっしょです。私の両親は、私に会うことよりも、私の子どもたち、つまり孫に会うのを楽しみにしています。

この間もいつものように子どもたちといっしょに実家に行きました。いつものようにごろごろして、いつものように昼寝をしていました。ここで、いつもなら母の「ごはん、できたよー」という声で起きます。だけど、その日は違いました。子どもたちがどたどたと大きな足音をたてて走ってきて、「お母さん、おもしろいもの、見つけた！」と言って、私を起こしたのです。

「おもしろいもの？」

私が、眠い目をこすりながら聞くと、子どもたちは古いノートや教科書を次々に見せて

「これ！ 見て見て！」

と言いました。それは、私が中学生や高校生のときに使っていたものでした。

なつかしいなあと思って、ぱらぱらノートをめくって、すぐに、あることに気がつきました。ノートにも教科書にも、ほとんど全部のページに落書きがあります！

教科書の中の、昔の偉い人たちは全員、変な髪型になっていたりサングラスをかけたりしています。当時流行っていたバスケットボール漫画のキャラクターもいろいろなところにいます。「かめ」の絵、「めがね」の絵、「ねこ」の絵などが100個くらい並んで描いてあるのは、たぶん、絵で「しりとり」をしていたのだと思います。そして、ページの右下には、ぱらぱら漫画まであります。ぱらぱら漫画というのは、たくさんの紙に少しずつ違う絵を描いて、それを素早くぱらぱらめくると、動画のように動いて見えるという漫画です。300ページくらいある厚い教科書の、全部のページの右下にパラパラ漫画が描いてあります。

どれだけ暇な人が描いたんだ、とつっこみたいところですが、その暇な人は学生時代の私です。

子どもたちが笑いながら私に言いました。

「お母さん、全然勉強してないじゃん。」

私は苦笑いしながら母に言いました。

「お母さん、なんでこんなもの、まだとっておいてるの？」

子どもたちが、私の母に言いました。

「おばあちゃん、よくとっておいたね！ ナイス！」

その後、子どもたちは、私の実家に行くたびに、私の古いノートや作文などを探し出しては、にやにや笑っています。今では、私にとって実家は、ごろごろできる場所ではなく、ちょっとひやひやする場所になってしまいました。

(1068 字)

(2021.9 Written by Junko SATO)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.